

中 学 校

令和6年度

教育研究員研究報告書

社 会

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	2
III	研究仮説	3
IV	研究構想図	3
V	研究の実践事例	4
	〈1 事例1 歴史的分野〉	4
	〈2 事例2 地理的分野〉	8
	〈3 事例3 公民的分野〉	12
VI	研究の成果と課題	16

研究主題

主体的に課題を追究し、解決することができる生徒の育成 ～学習課題の設定と学習方法を生徒に委ねる授業の実践～

I 研究主題設定の理由

『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)(中央教育審議会 令和3年1月26日)では、これからの学校においては、「これまで以上に子供の成長やつまずき、悩みなどの理解に努め、個々の興味・関心・意欲等を踏まえてきめ細かく指導・支援することや、子供が自らの学習の状況を把握し、主体的に学習を調整することができるよう促していくことが求められる」と示されている。また、「義務教育の在り方ワーキンググループ中間まとめ」(中央教育審議会初等中等教育分科会 令和5年12月28日)では、「生涯学習社会を生き抜く自立した学習者の育成」に向けて、「教師が個々の子供の学びの状況を把握しつつ、学びの主導権を子供たちに委ねることにより、子供たちが、自らの学びを『自分事』として捉え、自発的に他者と関わりながら自分で学びを深めていくような学習活動を、学年や学期等の一定の学校教育活動のまとまりの中に適切に組み入れていくことが重要である」と示されている。

一方で、令和3・4・5年度の「全国学力・学習状況調査」(文部科学省)の生徒質問紙及び学校質問紙調査において、次の調査結果が示された。

表1

生徒質問紙(39)「1、2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか」の肯定的な回答(当てはまる・どちらかといえば当てはまる)の割合	令和3年度	令和4年度	令和5年度
東京都(公立)	72.9%	74.8%	74.3%
全国(公立)	74.3%	75.3%	74.9%
差	-1.4ポイント	-0.5ポイント	-0.6ポイント

表2

生徒質問紙(37)「1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」、学校質問紙(26)「調査対象学年の生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか」の肯定的な回答(当てはまる・どちらかといえば当てはまる)の割合	令和3年度	令和4年度	令和5年度
生徒質問紙 東京都(公立)	80.3%	79.8%	79.4%
学校質問紙 東京都(公立)	84.7%	90.8%	89.6%
差	4.4ポイント	11.0ポイント	10.2ポイント

表1から、東京都は全国と比較し、「1、2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか」という項目に対する肯定的な回答が低いことが分かる。表2から、東京都は、「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む」という主旨の項目において、生徒と教師との間に意識の差があり、教師が考えているほど、生徒は主体的に課題の解決に向けて取り組むことができていないことが分かる。

このことから、本研究では、生徒が課題の解決に向けて、自ら考え、自ら学習方法を選択する授業へと、教師の指導観の転換を図ることが重要であると捉え、「主体的に課題を追究し、解決することができる生徒の育成～学習課題の設定と学習方法を生徒に委ねる授業の実践～」という研究主題を設定した。

II 研究の視点

主体的に課題を追究し、解決することができる生徒を育成するためには、教師が設定した「単元を貫く問い」の解決に向け、生徒が自ら学習課題を設定し、自ら選択した学習方法で情報を収集・整理・分析することが重要である。そこで、次の二つの視点から研究主題に迫ることとした。

1 生徒が学習課題を設定するための手だて

(1) 「単元を貫く問い」の設定と適切な資料提示

生徒が学習課題を設定するために、まず教師が「単元を貫く問い」を設定する。「単元を貫く問い」を設定するに当たっては、生徒一人一人が異なる学習課題を設定した場合でも、当該単元で育成を目指す資質・能力につながる問いになるようにする。また、生徒が自ら学習課題を設定する場面においては、教師が「単元を貫く問い」の解決につながる複数の資料を意図的・計画的に提示する。これらにより、生徒一人一人が適切な学習課題を設定することができるようにする。

(2) 「単元を貫く問い」の解決に向けた振り返りの設定

生徒が設定する学習課題の質を高めるために、設定した学習課題が「単元を貫く問い」の解決に迫っているかという視点で見直し、学習課題を修正したり、新たな学習課題を設定したりするなど、生徒が主体的に自らの学習を調整することが重要である。そこで、毎時間、生徒に学習課題を振り返らせる場を意図的・計画的に設定し、生徒に次時の学習活動への見通しをもたせる。この積み重ねにより、生徒が自ら学習の調整を図り、「単元を貫く問い」の解決に向かうことができるようにする。

2 生徒が自ら選択した学習方法で情報を収集・整理・分析するための手だて

(1) 情報を収集するための多様な教材の提示

教科書や資料集の該当ページ、関連する図書を紹介するとともに、動画や信頼性の高い関連ウェブサイト等、多様な教材を一人1台端末の共有フォルダに格納し、生徒がいつでも多様な教材を参考にすることができるようにする。このことにより、生徒が課題を追究する際、自分自身の課題の追究に最も適した方法で情報を収集できるようにする。

(2) 情報を整理・分析するための「思考ツール」の活用

収集した情報を整理・分析するための多様な「思考ツール」(座標軸、ベン図、ウェビングマップ、クラゲチャート等)を提示し、具体的な活用事例を説明する。このことにより、生徒が課題の追究に適した「思考ツール」を自ら選択し、複数の情報を分類・整理したり、比較・関連付けたりすることができるようにする。

(3) 生徒同士の交流の場の設定

生徒が自ら設定した学習課題や課題の追究の様子を記録する「学習課題シート」を一人1台端末で共有する。このことにより、個人で学びたい生徒が自身の学習課題を追究する際の参考にしたり、複数人で学びたい生徒が自ら交流相手を決めて意見交換したりすることができるようにし、生徒が自分のペースに合わせて学習方法を選択することができるようにする。

Ⅲ 研究仮説

本研究では、前述した二つの手だてを講じることで、主体的に課題を追究し、解決することができる生徒の育成を図ることができると考え、以下の研究仮説を立てた。

「単元を貫く問い」に対し、生徒自らが社会的な見方・考え方を働かせながら、学習課題を設定したり、自ら選択した学習方法で情報を収集・整理・分析したりすることで、主体的に課題を追究し、解決することができるようになるだろう。

Ⅳ 研究構想図

背景	中学校学習指導要領社会 教科の目標
子供の成長やつまづき、悩みなどの理解に努め、個々の興味・関心・意欲等を踏まえてきめ細かく指導・支援することや、子供が自らの学習の状況を把握し、主体的に学習を調整することができるよう促していくことが求められる。『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）（中央教育審議会令和3年1月26日）	社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することを旨とする。

生徒の実態と学校（教師）の現状	
東京都は全国と比較し、「1、2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか」という項目に対する肯定的な回答の割合が低い。〔「全国学力・学習状況調査」（令和3・4・5年度 文部科学省）〕	東京都は、「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む」という主旨の項目において、生徒と教師との間に意識の差がある。〔「全国学力・学習状況調査」（令和3・4・5年度 文部科学省）〕

目指す生徒像
社会的な見方・考え方を働かせながら、 ○ 「単元を貫く問い」の解決に向けて、自ら学習課題を設定することができる生徒 ○ 自ら選択した学習方法で情報を収集・整理・分析し、課題を追究し、解決することができる生徒

研究主題
主体的に課題を追究し、解決することができる生徒の育成 ～学習課題の設定と学習方法を生徒に委ねる授業の実践～
研究仮説
「単元を貫く問い」に対し、生徒自らが社会的な見方・考え方を働かせながら、学習課題を設定したり、自ら選択した学習方法で情報を収集・整理・分析したりすることで、主体的に課題を追究し、解決することができるようになるだろう。

研究の視点
1 生徒が学習課題を設定するための手だて (1) 「単元を貫く問い」の設定と適切な資料提示 (2) 「単元を貫く問い」の解決に向けた振り返りの設定
2 生徒が自ら選択した学習方法で情報を収集・整理・分析するための手だて (1) 情報を収集するための多様な教材の提示 (2) 情報を整理・分析するための「思考ツール」の活用 (3) 生徒同士の交流の場の設定

V 研究の実践事例

1 事例1 歴史的分野

(1) 単元名

現代の日本と世界「日本の経済の発展とグローバル化する世界」

(2) 単元の目標

- ・ 高度経済成長、国際社会との関わり、冷戦の終結などを基に、我が国の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上し、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解する。
- ・ 政治の展開と国民生活の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、日本の経済発展とグローバル化する世界について現代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現する。
- ・ 現代の日本と世界を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現する。
- ・ これまでの学習を踏まえ、歴史と私たちとのつながり、現在と未来の日本や世界の在り方について、課題意識をもって多面的・多角的に考察、構想し、表現する。
- ・ 現代の日本と世界について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。

(3) 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 高度経済成長、国際社会との関わり、冷戦の終結などを基に、我が国の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上し、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解している。	① 政治の展開と国民生活の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、日本の経済発展とグローバル化する世界について現代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ② 現代の日本と世界を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ これまでの学習を踏まえ、歴史と私たちとのつながり、現在と未来の日本や世界の在り方について、課題意識をもって多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	① 現代の日本と世界について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

(4) 単元について

本単元では、日本が冷戦の影響の中で独立を果たし、高度経済成長を経て、国民生活が向上していく時代を取り扱う。また、現代社会につながる社会的事象についても取り扱い、冷戦終結後、グローバル化が一層加速する中で、民族・宗教をめぐる対立や地球環境問題等の問題が顕在化し、平和外交の推進や発展途上国への援助等、日本に求められる役割が大きくなっていることへの理解を図る。単元の目標を達成できるようにするために、日本が独立を回復し、国際社会へ復帰した後の歴史を世界の歴史と関連付けさせながら追究させる。また、公民的分野の学習に向けた課題意識をもつことができるように指導する。

(5) 研究主題に迫るための手だて

ア 生徒が学習課題を設定するための手だて

(7) 「単元を貫く問い」の設定と適切な資料提示

設定した「単元を貫く問い」	提示した資料
<p>独立回復後の我が国の国民の生活はどのように変化したか。また、現在の世界の中で、日本はどのような役割を果たすべきか。</p> <p>(設定理由) 政治の展開と国民生活の変化等に着目して、我が国の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上し、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解させるため。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「建設中の東京タワー（1958年）と街頭テレビに集まる人々（1955年）」（写真） ・「東京オリンピックの開会式（1964年）」（写真） ・「日韓基本条約調印（1965年）」（写真） ・「中国の毛沢東主席・周恩来首相と会談する田中角栄首相（1972年 中国）」（写真） ・「沖縄返還記念式典（那覇市）」（写真） ・「工場に囲まれた校庭で遊ぶ子どもたち」（1972年 三重県四日市市）」（写真） ・「トイレットペーパーの売り場に殺到する人々（1973年 東京都）」（写真） ・「日本車を壊して抗議するアメリカ人」（写真） ・「日本の地価と株価の移り変わり」（グラフ） ・「マルタ会談（1989年）」（写真） ・「現代の紛争はどこで起こっているか?」（グラフ） <p>※「国民の生活の変化に迫れる資料」、「現在の世界における日本の役割に迫れる資料」、「どちらの項目にも迫れる資料」に分類し、提示した。</p>

(4) 「単元を貫く問い」の解決に向けた振り返りの設定

生徒が設定した学習課題の追究が終わった段階で、「この学習課題を解決する過程で学んだこと、次の学習に生かせること」を記録させた（図1）。このように振り返りを行うことで、上手くいった点を次の学習課題の追究に活用させるとともに、上手くいかなかった点を生徒自身が認識して改善を図るなど、生徒が主体的に学習の調整を図ることができるようにした。

図 1

学習課題シート①	
<p>単元を貫く問い：独立回復後の我が国の国民の生活はどのように変化したか。また、現在の世界の中で、日本はどのような役割を果たすべきか。</p> <p>この単元を学習する際のキーワード 高度経済成長、石油危機、沖縄返還、日中国交正常化、冷戦の終結</p>	
<p>①単元を貫く問いの解決につながりそうな資料を選び、そのタイトルを書こう トイレットペーパーの売り場に殺到する人々</p> <p>② ①の資料を選んだ理由を書こう トイレットペーパーは私たちの生活の必需品なので、調べれば、国民生活の変化につながりそうだから。</p> <p>③ 「歴史的な見方・考え方」を働かせ、資料から読み取った情報から学習課題をつくらう なぜこのような事態が発生したのか。</p>	<p>学習課題に対する答え (文章で記述する) 1973年に第4次中東戦争が起こり、OPECが原油の供給制限と輸出価格の大幅な引き上げを行ったことから、国際原油価格は3カ月で約4倍に高騰した。これにより、石油消費国である先進国を中心に世界経済は大きく混乱した。エネルギーの8割近くを輸入原油に頼っていた日本も例外ではなかった。石油供給が途絶えれば、日本は物不足になるのではないかと、という不安感から人々を買いだめ・買い占めに走らせ、一方で売り出しみや便乗値上げなどをする小売店も現れたことから、写真のような混乱が発生した。</p>
<p>調べる際に活用した資料 ・資料集P225 ・インターネット ・動画「石油危機とアジアの経済発展」</p>	<p>振り返り（この学習課題を解決する過程で学んだこと、次の学習に生かせることなど） 写真の様子は、石油危機が原因で発生したことが分かった。石油危機の影響で日本の高度経済成長が終わったことも分かったため、次は高度経済成長について調べたい。</p>

イ 生徒が自ら選択した学習方法で情報を収集・整理・分析するための手だて

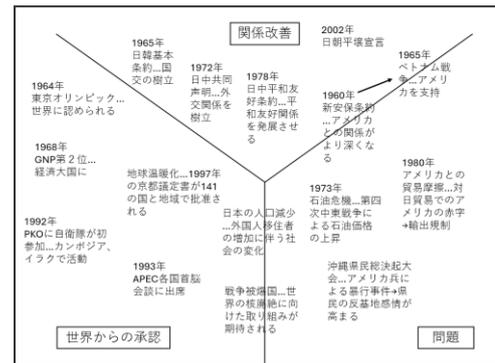
(7) 情報を収集させるための多様な教材の提示

学習課題の解決のために活用できる教材（教科書・資料集の該当ページ、書籍、動画資料等）をワークシートに記載した。また、学校図書館から現代の歴史に関する書籍を選書してブックラックにまとめ、生徒がいつでも閲覧できるようにした。さらに、「高度経済成長」、「石油危機」、「日中平和友好条約」、「ベルリンの壁」、「自衛隊の国際貢献」等の関連動画を一人1台端末の授業支援ツール上に格納し、生徒が自分の判断で閲覧できるようにした。

(イ) 情報を整理・分析するための「思考ツール」の活用

これまでの授業で使用した「思考ツール」を提示し、収集した情報をどのように整理するのが有効であったかを全体で振り返った。また、教師が参考となる生徒の好事例をスクリーンに投影して全体で共有することで、「思考ツール」の活用を促した。図2は、生徒が世界と日本の関係について、「Yチャート」を用いて情報を整理・分類した事例である。

図2



(ウ) 生徒同士の交流の場の設定

学習課題を追究する場面では、座席はいつでも移動可とし、生徒が自分の判断で他の生徒と交流することができるようにした。また、学ぶ場所も教室の中では自由とした。「学習課題シート」は、全ての生徒が一人1台端末でお互いに関覧できるようにした。

第6・7時の「単元を貫く問い」についてまとめる学習活動においては、教師が意図的なグループを設定し、その中で互いの考えを共有させた。その後、数人に学級全体で発表させ、他の生徒の意見を聞いて自らの考えを深めさせるようにした。

(6) 単元の指導計画と評価計画（8時間扱い）○「評定に用いる評価」●「学習改善につなげる評価」

展開	学習活動	評価規準（評価方法）※指導上の留意点
課題設定 (第1時)	◇ 「単元を貫く問い」の解決に向け、資料を基に学習課題を設定するとともに、単元の見通しをもつ。 ・ 「もはや戦後ではない」という経済白書（1956年）の言葉と「東京オリンピックの開会式（1964年）」の写真から、当時の日本の様子を理解する。 ・ 海外でPKO活動を行う日本の自衛隊の写真から、創設当時の自衛隊と現在の自衛隊の役割が変化してきていることについて理解する。	※ 「もはや戦後ではない」という言葉の本来の意図（日本経済の停滞を予想）を説明するとともに、東京オリンピックの写真から経済発展に触れ、当時、政府の予想とは異なる事象が起きていることを捉えさせる。
	単元を貫く問い：独立回復後の我が国の国民の生活はどのように変化したか。 また、現在の世界の中で、日本はどのような役割を果たすべきか。 ・ 「単元を貫く問い」に対する予想をワークシートに記入する。 ・ 提示された資料を参考に、学習課題を設定し、「学習課題シート」に記入する。 ・ 設定した学習課題について、他の生徒と共有し、必要に応じて修正する。	※ 歴史的な見方・考え方を働かせて資料を読み、学習課題を設定するように指導する。 ●ウー①（ワークシート）
課題追究 (第2時～第5時)	◇ 自ら設定した学習課題について情報を収集・整理・分析する。 ・ 自ら選択した学習方法で、学習課題について追究し、「学習課題シート」にまとめる。 ・ 必要に応じて、他の生徒と協働して学習課題を追究したり、情報を共有したり、他の生徒の「学習課題シート」を参照したりする。 ・ 一つの学習課題を追究する中で生じた疑問から、新たな学習課題を設定し、追究する。 ・ 自らの学習状況の振り返りをワークシートに記入する。	※ 毎時間の始めに、「単元を貫く問い」を確認し、意識付ける。 ※ 生徒一人一人の進捗状況を確認し、「単元を貫く問い」の解決に向かうことができるように適宜支援する。 ●アー①（学習課題シート） ●イー①（学習課題シート） ●ウー①（ワークシート）

課題解決 (第6・7時)	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 「単元を貫く問い」及び現代の日本の特色について多面的・多角的に考察し、表現する。 ・ 「単元を貫く問い」について考察したことを、グループ内で共有する。 ・ 「単元を貫く問い」について、グループ内での他の生徒の発表を参考にしながら、レポートにまとめる。 ・ これまでの学習を踏まえ、現代の日本の特色を考察し、ワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 生徒の学習状況から理解が不十分と思われる内容について、全体で確認する。 ○アー① (レポート) ○イー① (レポート) ○ウー① (ワークシート) ○イー② (ワークシート)
第8時	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 歴史的分野の学習を踏まえ、現代の世界と日本が抱える課題について、考察、構想し、表現する。 ・ これまでの歴史的分野の学習を踏まえて、「より良い社会の実現に向け、歴史から学んだことを踏まえて、私たちがすべきことを提案しよう。」というテーマで考察、構想し、レポートに記入する。 ・ 本単元を振り返り、感想等をワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○イー③ (ワークシート)

※課題設定から課題解決に記した配当時間と学習内容は目安であり、生徒の進捗状況に応じて柔軟に変更する。

(7) 生徒の学習状況

○ 生徒Aの「学習課題シート」の記述

生徒が自ら学習課題を設定し、自ら選択した学習方法で課題を追究したことにより、次のように歴史的な見方・考え方を働かせ、主体的に学習する姿が見られた。

生徒Aの第1時の「学習課題シート」
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選択した資料「工場に囲まれた校庭で遊ぶ子どもたち」(写真) ・ 設定した学習課題「なぜ教育の場の近くに工場を建てたのか」
<p>生徒Aは、写真から読み取れる率直な疑問を学習課題としており、この時点では、「単元を貫く問い」が意識できていないことが推察される学習課題であった。</p>

研究の視点1 (1)「単元を貫く問い」の設定と適切な資料提示
研究の視点1 (2)「単元を貫く問い」の解決に向けた振り返りの設定
<p>生徒Aは、第2時の振り返りにおいて、「この学習課題を解決する過程で学んだこと」の欄に、「高度経済成長による重化学工業の発達により、多くの工場から出た汚水や排煙によって公害が起き、当時の社会へ大きな影響があった」と理解したことを記述した。さらに、提示された資料の中から、「東京オリンピックの開会式(1964年)」の写真に着目し、高度経済成長における日本の経済発展と結び付けた。</p>

生徒Aの第3時の「学習課題シート」
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選択した資料「東京オリンピックの開会式(1964年)」(写真) ・ 設定した学習課題「どうやって、日本はオリンピック開催国に立候補できるくらいに経済成長したのか」
<p>生徒Aは、公害の原因を理解し、それに関連付けながら「つながり」という歴史的な見方・考え方を働かせて歴史的現象の原因を追究する学習課題を設定し、「単元を貫く問い」の解決に迫ろうとした。</p>

○ 生徒Bのワークシートの記述

生徒Bは、単元終了後の感想において、次のように振り返った。

<p>今回は慣れていない授業形式で戸惑った。いつもどおり先生が授業をして、黒板に書かれたことをノートにまとめる方がやりやすいと思っていた。しかし、自分で学習課題を考え、学習を進めていくうちに、この授業の重要性に気付くことができた。自分で学習課題を考えたことで今までの授業とは違って、学習したことがより深まった。何より「思考力」が養われた。日頃から「なぜ？」と考えることを大事にしようと思った。</p>

2 事例2 地理的分野

(1) 単元名

日本の諸地域「九州地方」

(2) 単元の目標

- ・九州地方の地形や気候などの特色ある自然環境を生かした人々の生活や産業、そこで生ずる課題について理解する。
- ・九州地方において、特色ある人々の生活や産業が成立する背景を、自然環境や大陸との結び付き、地域の課題などと有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する。
- ・九州地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする態度を養う。

(3) 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 九州地方の地形や気候などの特色ある自然環境を生かした人々の生活や産業、そこで生ずる課題について理解している。	① 九州地方において、特色ある人々の生活や産業が成立する背景を、自然環境や大陸との結び付き、地域の課題などと有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。	① 九州地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

(4) 単元について

本単元は、中学校学習指導要領のうち、地理的分野の内容C「日本の様々な地域」(3)「日本の諸地域」に基づき設定している。この中項目は、空間的相互依存作用や地域等に関わる視点に着目して、地域の特色ある地理的な事象を他の事象と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する力を育成することを主なねらいとしている。

本単元では、「自然環境を中核とした考察の仕方」をテーマに展開する。生徒が、九州地方の人々の生活や産業の発展が、特色ある自然環境と向き合い、課題を克服してきた歴史の上に成り立っていることに気付くとともに、本中項目の終末において、各地域の特色や課題について考察することができるように指導する。

(5) 研究主題に迫るための手だて

ア 生徒が学習課題を設定するための手だて

(7) 「単元を貫く問い」の設定と適切な資料提示

設定した「単元を貫く問い」	提示した資料
<p>九州地方の特色ある自然環境は、人々の生活や産業の営みとどのような結び付きがあるのだろうか。</p> <p>(設定理由) 九州地方の自然環境に関する特色ある事象を中核として、それを人々の生活や産業等に関する事象と関連付けて多面的・多角的に考察し、理解させるため。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「鹿児島市の克灰袋」(写真) ・「鹿児島のテレビ局が放送している天気予報の画面(鹿児島読売テレビ資料)」(予報図) ・「噴煙を上げる桜島と鹿児島の市街地(鹿児島県、鹿児島市、2015年撮影)」(写真) ・「九州地方の主な都市と東京の雨温図」(雨温図) ・「台風の接近数(1951年～2019年)」(グラフ) ・「九州地方の位置と大陸との結び付き」(地図)

	<ul style="list-style-type: none"> ・「土砂災害を防ぐ砂防ダム（熊本県小国町）」（写真） ・「南の海でのダイビング（沖縄県宮古島）」（写真） ・「主な農業地域の農業産出額の内訳」（グラフ） ・「宮崎平野の野菜づくり」（分布図） ・「シラスの分布と畜産」（分布図・グラフ） ・「ホンコン（香港）のスーパーマーケットで売られる福岡県産いちご『あまおう』」（写真） ・「八幡製鉄所（福岡県北九州市）」（写真） ・「八幡製鉄所と原料の産出地」（地図） <p>※関連する資料はグループごとにまとめ、色分けして提示した。</p>
--	---

(イ) 「単元を貫く問い」の解決に向けた振り返りの設定

毎時間の振り返りでは、ワークシート（図3）に「成果・上手くいったこと」や「課題・反省点」、「次の時間に向けてやること」を記述させた。また、生徒が設定した学習課題や、調べて学んだことをまとめた「学習課題シート」等の中から、他の生徒の参考になるものを全体の場で紹介し、生徒が自らの学習を調整する手掛かりとした。

図3

学習の振り返り 毎時間の終わりに自分の学習を振り返ろう			
	成果・上手くいったこと	課題・反省点	次の学習に向けてやること
調べ学習①	充灰袋の使用方法和配布している地域が分かった。	回収した火山灰はどのように処理しているのか調べるのに時間がかかってしまった。	九州地方の火山に関連する学習課題を設定した友達が何を調べているか、意見交換したい。
調べ学習②			
調べ学習③			
調べ学習④			
調べ学習⑤			

イ 生徒が自ら選択した学習方法で情報を収集・整理・分析するための手だて

(7) 情報を収集するための多様な教材の提示

学習課題を解決するために活用できる教材（教科書・資料集の該当ページ、動画資料等）をワークシートに記載した。また、「暖かい気候を生かした農業」、「火山の多い九州地方」、「シラス台地とその利用」等の関連動画を一人1台端末に格納し、生徒が必要に応じて閲覧できるようにした。

(イ) 情報を整理・分析するための「思考ツール」の活用

学習課題を追究する場面では、毎時間の始めに、特色ある自然環境と人々の生活や産業等の結び付きを生徒が意識できるようにウェビングマップ（図4）（次頁）を示した。このウェビングマップを参考にし、生徒は自身が設定した学習課題を追究するために適した「思考ツール」を用いて、自ら情報の整理・分析を行った。

(ウ) 生徒同士の交流の場の設定

学習課題を設定する場面において、同じ資料を使って学習課題を考えた生徒同士の交流の場を意図的に設定した。その際、『「単元を貫く問い」に迫る学習課題となっているか』、「地理的な見方・考え方を働かせた学習課題となっているか」という視点で交流させた。また、生徒の学習状況を把握し、個々の進捗やつまずきに応じて、生徒同士が相互に補完し合いながら学べるよう、教師がファシリテーターとなって交流を促すようにした。

課題解決 (第5・6時)	<p>◇ 「単元を貫く問い」について多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「単元を貫く問い」について考察したことを「思考ツール」を用いてまとめ、グループ内で共有する。 ・ 「単元を貫く問い」について、グループ内での他の生徒の発表を参考にしながら、レポートにまとめる。 	<p>※ 九州地方の特色や課題について、これまでの学習を踏まえて生徒へ声掛けをしたり、生徒の考察への価値付けを行ったりする。</p> <p>○イー① (レポート) ○ウー① (ワークシート)</p>
-----------------	---	---

※課題設定から課題解決に記した配当時間と学習内容は目安であり、生徒の進捗状況に応じて柔軟に変更する。

(7) 生徒の学習状況

○ 生徒Cの「学習課題シート」の記述

「単元を貫く問い」の解決に向けた生徒Cの学習課題は、次のように変容した。

生徒Cの第1時の「学習課題シート」
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選択した資料「主な農業地域の農業産出額の内訳」(グラフ) ・ 設定した学習課題「九州ではなぜ畜産が多いのか」



生徒Cの第2時の「学習課題シート」
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選択した資料「九州地方の主な都市と東京の雨温図」(雨温図) ・ 設定した学習課題「九州地方は降水量が多いのに、なぜ米ではなく畜産の生産の割合が高いのか」



生徒Cの第3時の「学習課題シート」
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選択した資料「九州地方の位置と大陸との結び付き」(地図) ・ 設定した学習課題「九州地方の位置は、各産業にどのように影響しているか」

当初は、中核となる考察の仕方や「単元を貫く問い」を十分に踏まえていない学習課題であった。しかし、生徒Cは、教師が例示したウェビングマップを参考にしたことで、九州地方の自然環境と産業がどのように結び付いているかを考え、毎時間、新たな学習課題を設定し「単元を貫く問い」の解決に迫っていった。

○ 「単元を貫く問い」を解決する場面での生徒D・E・Fの考察

生徒D・E・Fは、「単元を貫く問い」に対し、九州地方の自然環境が人々の生活や産業等と関連付けて考察した。以下は、生徒D・E・Fが考察した記述の一部である。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 火山は災害をもたらすものであるが、九州地方においては、観光業や農業などにも活かされていることが分かった。(生徒D) ・ 九州地方の特色ある自然環境は、噴火による降灰といったデメリットもあるが、人々はそれをメリットとして農業等にも活用している。(生徒E) ・ 九州地方の人々の生活や産業は、特色ある自然環境のどの要素が抜けても成立しない。(生徒F)

3 事例3 公民的分野

(1) 単元名

私たちと政治「人間の尊重と日本国憲法の基本的原則」

(2) 単元の目標

対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるようにする。

- ・ 人間の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深め、民主的な社会生活を営むためには、法に基づく政治が大切であること、日本国憲法が基本的人権の尊重、国民主権及び平和主義を基本的原則としていること、日本国及び日本国民統合の象徴としての天皇の地位と天皇の国事に関する行為について理解する。
- ・ 我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について多面的・多角的に考察し、表現する。
- ・ 人間の尊重についての考え方や日本国憲法の基本的原則などについて、現代社会にみられる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養う。

(3) 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 人間の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深め、理解している。 ② 民主的な社会生活を営むためには、法に基づく政治が大切であることを理解している。 ③ 日本国憲法が基本的人権の尊重、国民主権及び平和主義を基本的原則としていることについて理解している。 ④ 日本国及び日本国民統合の象徴としての天皇の地位と天皇の国事に関する行為について理解している。	① 対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について多面的・多角的に考察し、表現している。	① 人間の尊重についての考え方や日本国憲法の基本的原則などについて、現代社会にみられる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

(4) 単元について

本単元は、個人の尊重と法の支配、民主主義等、法に基づく民主政治の基本となる考え方に関する理解を基に、政治及び法に関する様々な事象を捉え、課題を追究したり解決したりする活動を通して、日本国憲法の基本的な考え方及び我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について理解を深めることができるようにすることを主なねらいとしている。

民主主義の基礎となる個人の尊厳と人権の尊重という考え方やそれが法に基づく政治によって実現されていることの価値や意義について理解することは、社会の形成者となる生徒たちにとって重要なことである。指導に際しては、具体的な生活との関わりから学習を進め、生徒自らが価値や意義に気付くことができるようにする。また、学習課題を追究したり、解決したりする場面では、現代社会の見方・考え方を働かせて、法の支配や日本国憲法と私たちの生活との関連やその本質、意義を捉えられるように指導する。

(5) 研究主題に迫るための手だて

ア 生徒が学習課題を設定するための手だて

(7) 「単元を貫く問い」の設定と適切な資料提示

設定した「単元を貫く問い」	提示した資料
<p>私たちの基本的人権はどのように保障されているのだろうか。</p> <p>(設定の理由)</p> <p>対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義等に着眼して、我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義を多面的・多角的に考察することを通して、人間の尊重についての考え方、法に基づく政治が大切であること、日本国憲法が基本的人権の尊重を基本的原則としていることを理解させるため。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「女性の政治参画の割合」(グラフ) ・「通勤する人に付きそう盲導犬」(写真) ・「渋谷区のパートナーシップ証明書」(写真) ・「院内学級」(写真) ・「緊急事態宣言による臨時休業を伝える貼り紙」(写真) ・「生徒が製作に協力した制服の展示会」(写真) ・「インターネットでの人権侵害事件の件数の推移」(グラフ) ・「袴田巖さん 再審で無罪判決」(写真)

(4) 「単元を貫く問い」の解決に向けた振り返りの設定

毎時間の振り返りでは、「理解したこと」や「考えたこと」、「新たな疑問」等を記述させた(図5)。生徒の記述した内容を点検し、誤った理解を修正したり、新たな学習課題の設定につながるようなフィードバックを行ったりした。また、学習課題を追究する場面では、ある生徒が設定した学習課題を例として学級全体に紹介し、異なる学習課題に取り組んでいる生徒からの意見を聞くことができるようにきっかけを作り、生徒の学びが深まるように促した。

図5

○学習の振り返り		
学習日	振り返り(理解したこと・考えたこと・新たな疑問など)	教師コメント
①10/30	院内学級は、病院内の病弱や身体虚弱の子供たちのために病院内に設置された学級だということが分かった。基本的人権とどのように関わるのか調べていきたい。	
②		
③		
④		

★対話シート

次の表にクラスメイトとの対話を通して得た情報と自分と同じ考え方や違う考え方についてメモしておこう。また、クラスメイトから新たに得た視点や考え方についてもメモしておこう。

対話相手	情報の整理	自分の考えとの共通点と相違点・獲得した新たな視点
○○さん	院内学級：病弱・身体虚弱の特別支援学級 院内学級の設置の根拠：学校教育法	基本的人権の尊重とどのようにつながるのか、日本国憲法の条文を確認する必要がある。

イ 生徒が自ら選択した学習方法で情報を収集・整理・分析するための手だて

(7) 情報を収集するための多様な教材の提示

学習課題を解決するために活用できる教材(教科書、資料集、用語集の該当ページ、動画資料等)をワークシートに記載した。また、「e-gov 法令検索」、「東京都総務局人権部」、「性的指向・ジェンダーアイデンティティ理解増進(内閣府)」等のウェブサイトの情報や関連する新聞記事を示した。

(4) 情報を整理・分析するための「思考ツール」の活用

それぞれの「思考ツール」が何を目的としてどのように活用することができるのかまとめた一覧表(図6)(次頁)を配布した。生徒が一覧表を基に「思考ツール」を活用し、学習課題を追究する際に、最も適した方法で情報を整理・分析することができるようにした。

図 6

「思考ツール」の名称	Xチャート	ボーン図	ステップチャート	ベン図	座標軸	マトリクス(表)	ウェビングマップ	クラゲチャート	KWLチャート
形									
できること	複数の視点から捉える	事象の要因を探る	順序を整理する	共通点と相違点を見付ける	2つの軸で整理し位置付けを明確にする	関係の有無や関連度合いを示す	アイデアを出す	理由を挙げて具体的に示す	「知っていること」「知りたいこと」「分かったこと」を整理する
考えるための技法	多面的・多角的に見る	見通す構造化する理由付ける	順序付ける	比較する分類する	順序付ける	分類する整理する比較する多面的・多角的に見る	広げる	理由付ける	見通す

(ウ) 生徒同士の交流の場の設定

学習課題を設定する場面において、同じ資料を使って学習課題を考えた生徒同士の交流の場を意図的に設定した。その際、『『単元を貫く問い』に迫る学習課題となっているか』、「現代社会の見方・考え方を働かせた学習課題となっているか」という視点で交流させた。また、異なる学習課題を設定した生徒同士の交流も意図的に行った。このことにより、生徒が「単元を貫く問い」の解決に向けて、多面的・多角的に考察することができるようにした。

(6) 単元の指導計画と評価計画（12時間扱い）○「評定に用いる評価」●「学習改善につなげる評価」

展開	学習活動	評価規準(評価方法) ※指導上の留意点
課題設定 (第1時)	◇ 「単元を貫く問い」の解決に向け、資料を基に学習課題を設定するとともに、単元の見通しをもつ。 ・ 「人権擁護に関する世論調査」の結果から、人権をめぐる我が国の現状を理解する。	※ 事前に「私たちの人権は確実に保障されていると思いますか」というアンケートを実施し、生徒の認識を把握する。 ※ 事前のアンケート結果と「人権擁護に関する世論調査」を比較して示し、生徒が差異を見いだせるようにする。
	単元を貫く問い：私たちの基本的人権はどのように保障されているのだろうか。 ・ 「単元を貫く問い」に対する予想をワークシートに記入する。 ・ 提示された資料を参考に、学習課題を設定し、「学習課題シート」に記入する。 ・ 提示された資料の中から、同じ資料を使って学習課題を設定した生徒同士で意見交換する。	※ 現代社会の見方・考え方を働かせて資料を読み、学習課題を設定するように指導する。 ※ 意見交換する際の視点(「単元を貫く問い」に向かう学習課題となっているか、現代社会の見方・考え方を働かせているか)を示す。 ●ウー①(ワークシート)
課題追究 (第2時～第7時)	◇ 自ら設定した学習課題について情報を収集・整理・分析する。 ・ 自ら選択した学習方法で、学習課題について追究し、「学習課題シート」にまとめる。 ・ 必要に応じて、他の生徒と協働して学習課題を追究したり、情報を共有したり、他の生徒の「学習課題シート」を参照したりする。 ・ 一つの学習課題を追究する中で生じた疑問から、新たな学習課題を設定し、追究する。 ・ 自らの学習状況の振り返りをワークシートに記入する。	※ 毎時間の始めに、「単元を貫く問い」を確認し、意識付ける。 ※ 生徒一人一人の進捗状況を確認し、「単元を貫く問い」の解決に向かうことができるに適宜支援する。 ●イー①(学習課題シート) ●ウー①(ワークシート)

課題解決 (第8時～第10時)	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 「単元を貫く問い」について多面的・多角的に考察し、表現する。 ・ 「単元を貫く問い」について考察したことを他の生徒と共有する。 ・ 「単元を貫く問い」について、他の生徒の考察から得た異なる視点を加えながら、レポートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 個人の尊重や法の支配等の概念的枠組みが形成されるように、生徒へ声掛けをしたり、生徒の考察への価値付けを行ったりする。 ○イー① (レポート) ○ウー① (ワークシート)
振り返り (第11・12時)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人の尊重や法の支配等の概念的枠組みを基に、日本国憲法の基本的原則や天皇の地位等について理解する。 ・ 学習課題を追究する場面を振り返り、今後も追究していきたい課題についてワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 前時までの学習との関連、個人の尊重や法の支配等の概念的枠組みを意識付けるための声掛けを行う。 ○アー①②③④ (ワークシート、ペーパーテスト) ○ウー① (ワークシート)

※課題設定から課題解決に記した配当時間と学習内容は目安であり、生徒の進捗状況に応じて柔軟に変更する。

(7) 生徒の学習状況

○ 生徒Gの「学習課題シート」の記述

教師が提示した複数の資料から自ら学習課題を設定し、「単元を貫く問い」の解決に向けて課題を追究する姿が見られた。

生徒Gの「学習課題シート①」
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選択した資料「渋谷区のパートナーシップ証明書」(写真) ・ 設定した学習課題「どのような差別や課題があるのか」、「(パートナーシップ証明書がないと)日常生活にどのような支障があるのか」
生徒Gは、インターネットを検索して見つけた報道記事から、東京高等裁判所において、同性婚の不認可に関する違憲判決が下されたことを理解した。

生徒Gの「学習課題シート②」
<ul style="list-style-type: none"> ・ 新たに設定した学習課題「(同性婚の不認可は、)憲法のどこに違反しているのか」
生徒Gは、「(同性婚の不認可は、)憲法のどこに違反しているのか」について、日本国憲法第13条、第14条において幸福追求権や平等権が保障されていることを理解するとともに、「基本的人権とは平等で自由に幸福を追求できるもの。同性婚を認めないことは幸福追求権や平等権に違反している。」と考察した。

生徒Gの「学習課題シート③」
<ul style="list-style-type: none"> ・ 新たに設定した学習課題「条例とは何か」
生徒Gは、「条例とは何か」を調べる中で、「法の支配」について理解した。その後、再度、東京高等裁判所の判決内容を見返すとともに、日本国憲法第24条の条文に着目した。

生徒Gの「学習課題シート④」
<ul style="list-style-type: none"> ・ 新たに設定した学習課題「『両性の同意』を『両者の同意』に変えることはできないか」
生徒Gは、日本国憲法の改正は可能であることを理解し、その仕組みから、「憲法は、私たちの権利を保障するものであり、最後は私たちがどうするかを決める必要がある」と考察し、「民主主義」や主権者の役割に結び付くことに気付いた。

○ 生徒H・Iの交流場面の姿

生徒Hは、「袴田巖さん 再審で無罪判決」の資料を選択し、学習課題を追究する過程で「人権を保障するために裁判がある。裁判はどのような仕組みで行われているのか」と課題を設定した。また、生徒Iと対話した生徒Hは、冤罪事件の他の裁判事例を調べる過程で、マスメディアの報道に興味をもち「メディアの情報とどのように向き合えばよいか」といった学習課題の設定を行った。一人1台端末で互いの学習課題を参照しながら、協働して学習に取り組む姿が見られた。

VI 研究の成果と課題

1 研究の成果

○ 「単元を貫く問い」の解決に向けた学習課題の設定

生徒が自ら学習課題を設定することで、「単元を貫く問い」の解決に向けて主体的に課題を追究しようとする生徒の姿が見られた。各検証授業の始めは、どのような学習課題を設定すればよいか分からない生徒が多く存在したが、教師が生徒一人一人の学習状況を把握して個別に支援をしたことや、生徒同士の交流を充実させたことにより、生徒は、自ら設定した学習課題の改善を図り、「単元を貫く問い」の解決に迫る学習課題へと質を高めることができるようになった。また、教師が「単元を貫く問い」の内容を十分に検討し、提示したことで、単元で育成を目指す資質・能力から逸れることなく、生徒は課題を追究していくことができた。

○ 学習方法を生徒に委ねる授業

生徒が学習課題を追究するために適した学習方法を自ら選択するなど、生徒に学習方法を委ねたことにより、「単元を貫く問い」の解決に向けて主体的に追究しようとする生徒の姿が見られた。教師が学習課題の解決に迫るための多様な教材を提示すること、収集した情報を整理・分析するための「思考ツール」を提供すること、個人で追究したり複数人で相談したりする場や時間を意図的に設定したりすることなどで、生徒は自分に合ったペースで学習を進めることができた。

2 今後の課題

○ 生徒一人一人への適切な個別支援

生徒一人一人が個別の学習課題を設定するため、教師は、生徒の学習課題や学習課題を追究する様子を適切に把握し続ける必要がある。しかし、生徒数が多いほど、教師は生徒一人一人の学習状況を把握するための十分な時間が必要となる。このことを解決するためには、一人1台端末をさらに効果的に活用して、生徒一人一人の学習状況を効率よく把握することが重要である。また、「学習改善に生かす評価」に基づき、優先的に支援を行う生徒を把握し、個に応じた適切な支援を行っていくことも重要だと考えられる。

令和6年度 教育研究員名簿

中学校・社会

学 校 名	職 名	氏 名
新 宿 区 立 落 合 中 学 校	主 任 教 諭	宮 里 翼
新 宿 区 立 新 宿 中 学 校	主 任 教 諭	◎西川路 蘭 奈
品 川 区 立 日 野 学 園	主 任 教 諭	原 聡
江 戸 川 区 立 篠 崎 中 学 校	主 任 教 諭	山 田 大 樹
武 蔵 野 市 立 第 二 中 学 校	主 任 教 諭	栗 原 俊 哉
青 梅 市 立 第 六 中 学 校	主 任 教 諭	市 川 翔

◎ 世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部義務教育指導課

指導主事 安田 芳

令和6年度
教育研究員研究報告書
中学校・社会

令和7年3月

編 集 東京都教育庁指導部指導企画課
所 在 地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話番号 (03) 5320-6849